

内部質保証の実質化に向けたIR活動

まとめ



7つのポイント

大きな環境変化の中、継続的に自学ならではの特長ある教育を提供する大学経営をしていくためには、今こそIRに基づいてPDCAを回していくことが重要だ。その参考に、現状のIR活動を見直すポイントを以下にまとめた。

これまで

これから

1 判断根拠

勘や慣習ベース

数値ベース

厳しい時代を生き抜くためには、根拠に基づく未来予測と経営は必須。そのためのIRに

2 優先事項

どう測定調査するか?

戦略・方針・目的・目標

PDCAを回すためには、「Check」をどうするか議論より先に、「Plan」の立案を

3 体制

組織ありき

機能や活動優先

IRは使ってこそ。大学経営や教育改善に役立つようなあり方を構築し、「名ばかりIR」からの脱却を

4 スキル

高度な分析

議論のネタづくり

IRはコミュニケーションツール。エクセルベースで構わない。話したくなる、考えたくなるネタの提供を

5 立場

問題指摘

サポーター

IRは各部の欠点を探す活動ではない。現場の「よくしたい」気持ちを手助けする活動、コミュニケーションを

6 データ

各部署・担当のもの

大学のもの

組織風土づくりは情報共有から。「大学名」でとったデータは皆で共有するしくみを

7 コスト

コスト

コスト削減

各部で行っているデータの管理をIR担当が集約することで結果的に経営資源の効率化に